

PAT-NO: JP403191999A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03191999 A
TITLE: LID BODY FOR CLOTHES DRYER
PUBN-DATE: August 21, 1991

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
HAMAMOTO, MASAO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD N/A

APPL-NO: JP01330562
APPL-DATE: December 20, 1989

INT-CL (IPC): D06F058/04

US-CL-CURRENT: 34/201

ABSTRACT:

PURPOSE: To make it possible to improve the safety properties, reduce the number of parts and lower the assembly man-hour by a method wherein, for a lid body, a boss part to attach a back lid is integrally formed on the inside of a resin lid, and the back lid which covers the whole inner surface of the resin lid is made of a steel plate, and also on the outer periphery of this back lid, a flange is provided.

CONSTITUTION: On the inside of a resin lid 6, a boss part 8 on which an attaching hole 7 is provided is integrally formed, and a back lid 9 made of a steel plate, which covers the whole inner surface of a lid body 5, is provided. On this back lid 9, a protruding part 10 which has a diameter being larger than that of a clothes loading port 2 and a flange 11 on the outer periphery are provided, and the back lid 9 is fixed to the boss part 8 by a screw 12, etc. By this method, the number of parts and assembly man-hour can be reduced, and also, the weight of a lid body 5 becomes lighter, and even when clothes start a fire, flames do not come outside of the machine body, and the safety properties can be improved.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報(A) 平3-191999

⑮ Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)8月21日

D 06 F 58/04

R

6681-4L

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 衣類乾燥機の蓋体

⑯ 特 願 平1-330562

⑰ 出 願 平1(1989)12月20日

⑱ 発 明 者 濱 本 正 夫 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑲ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地

⑳ 代 理 人 弁理士 栗野 重孝 外1名

明 細 書

1、発明の名称

衣類乾燥機の蓋体

2、特許請求の範囲

機体の衣類投入口を開閉自在におおう蓋体を構成する樹脂製蓋の内側に裏蓋取り付け用のボス部を一体に形成し、前記樹脂製蓋の内面全体をおおう前記裏蓋を鉄板製とし、かつこの裏蓋の外周にフランジを設けてなる衣類乾燥機の蓋体。

3、発明の詳細を説明

産業上の利用分野

本発明は、衣類乾燥機の衣類投入口等、機体の開口部を開閉自在におおう蓋体に関する。

従来の技術

従来のガス式衣類乾燥機の蓋体13は、第3図または第4図のように、安全性向上のため鉄板製の蓋14に円形の裏蓋15をスポット溶接等で固定し、中央の開口部にガラス製の窓ガラス16を塩化ビニールよりなる保持体17で取付けるとともに、蓋14の前面には樹脂製の透明な表蓋18

を樹脂製の蓋フック19で固定するものであった。

発明が解決しようとする課題

このような従来の衣類乾燥機の蓋体では、鉄板製の蓋14に塗装処理を施し、別部材の保持体17および蓋フック19で窓ガラス16および表蓋18を固定しているため、蓋体13の製造は複雑で部品点数が多くなり、コスト高であった。また蓋14が鉄板製のため蓋体13の重量が重くなり、蝶番の強度を強くする必要があるとともに、蓋体13の仕上りは電気式衣類乾燥機に広く採用されている樹脂製の蓋構造より外観意匠性が劣るものであった。またガラス製の窓ガラス16で衣類投入口を開閉しており、ドラム内で衣類が発火した場合には、衣類が燃えて、その熱により窓ガラス16が割れ、パッキング20および表蓋18が焼損する恐れがあった。

本発明はこのような従来の課題を解消するもので、蓋の樹脂化で重量化をはかるとともに部品点数の削減と組立工数の低減で大幅なコスト合理化と外観意匠性の向上をはかるものであり、またド

ラム内で衣類が発火しても機体外へ炎がでにくい構造にし、より安全性を向上させることを目的とするものである。

課題を解決するための手段

上記目的を達成するため本発明の衣類乾燥機の蓋体は、樹脂製蓋の内側に蓋取り付け用のボス部を一体に形成し、前記樹脂製蓋の内面全体をおおう前記蓋を鉄板製とし、かつこの蓋の外周にフランジを設けたものである。

作用

本発明は上記した構成によって、樹脂製蓋の内側に一体に形成したボス部に蓋を簡単に取付けることができ、しかも蓋は鉄板製で外周にフランジを設けているため、薄い板厚でもべこつきが発生することがなく、軽量化ができ、樹脂製蓋の内面全体をおおうので安全性が向上できる。

実施例

以下、添付図面に基づいて本発明の実施例について説明する。第1図および第2図において、機体1の中央に衣類投入口2を設け、投入口フラン

ジ3にはパッキング4を装着し、衣類投入口2をおおう蓋体5を閉閉自在に機体1前面に取付ける。

樹脂製蓋6の内側に取付穴7を設けたボス部8を一体に形成し、樹脂製蓋6の内面全体をおおうように鉄板製の裏蓋9を設け、この裏蓋9には衣類投入口2より径大な凸部10および外周にフランジ11を設けて樹脂製蓋6のボス部8にねじ12等で固定する。蓋体5を閉じた場合には、パッキング4が裏蓋9の凸部10に当接して衣類投入口2を密閉する。

このように本発明の実施例の衣類乾燥機の蓋体によれば、蓋体の構造を簡素化でき、しかも、裏蓋は鉄板製で外周にフランジを設けているため、薄い板厚でもべこつきがなく、部品点数の削減と組立工数の低減で大幅なコスト合理化ができ、また蓋体の重量が軽くなり、樹脂製のネジを使用できるため、組立作業性、サービス性を向上でき、さらに、ドラム内の衣類が発火した場合でも機体外へ炎がでることがなく、安全性を向上できる。

発明の効果

1 ……機体、2 ……衣類投入口、5 ……蓋体、6 ……樹脂製蓋、8 ……ボス部、9 ……裏蓋、11 ……フランジ。

代理人の氏名 弁理士 桑 野 重 孝 ほか1名

以上の実施例の説明より明らかなように、本発明によれば樹脂製蓋の内側全体に鉄板製の裏蓋を固定することで、ドラム内の衣類が発火した場合でも樹脂製蓋まで類焼して機体外へ炎がでることがなく、安全性を向上できる。また蓋体を樹脂製蓋と裏蓋とで構成することで簡素化でき、部品点数の削減と組立工数の低減で大幅なコスト合理化ができ、しかも裏蓋の外周にフランジを設けているので、裏蓋の板厚を薄くしてもべこつきが発生することがなく、強度を高めることができる。

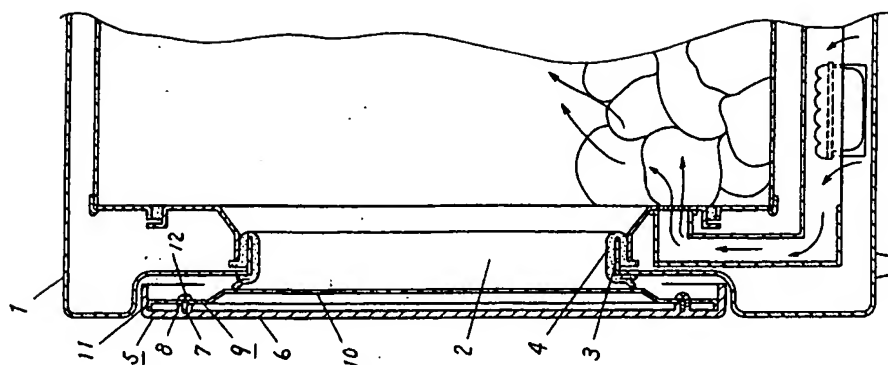
また蓋体の重量が軽くなり、従来のような金属製のネジを使用しなくてすみ、樹脂製のネジを使用できるため、組立作業性ならびにサービス性も向上できるものである。

4、図面の簡単な説明

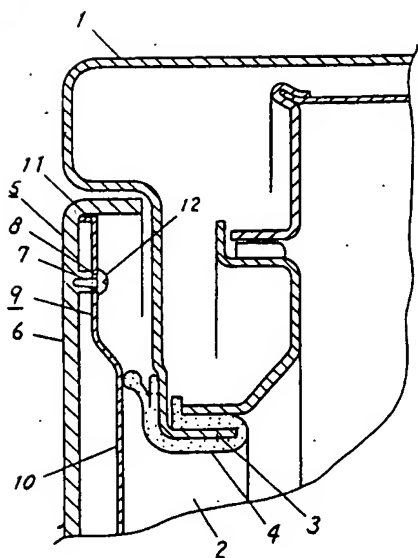
第1図は本発明の一実施例の衣類乾燥機の蓋体を備えた衣類乾燥機の一部切欠した縦断面図、第2図は同要部縦断面図、第3図は従来の衣類乾燥機の蓋体を備えた衣類乾燥機の一部切欠した縦断面図、第4図は同要部縦断面図である。

機 体
--- 衣類投入口
--- 蓋 体
--- 樹脂製部
--- ボス部
--- 蓋 部
--- フランジ

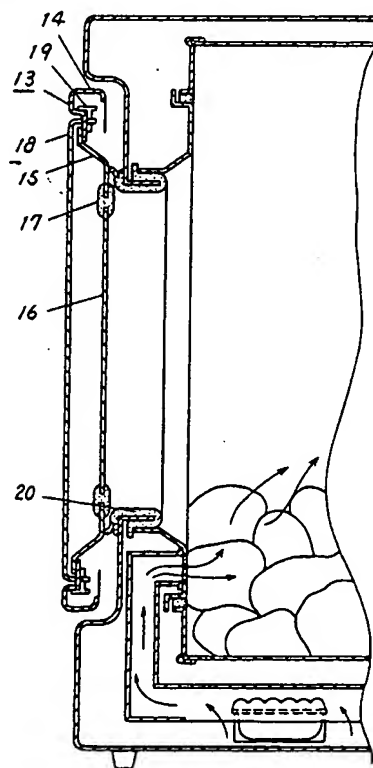
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

